



RENGO TOYAMA 高岡地協NEWS

No. 166 2023.11

発行
連合富山
高岡地域協議会
〒933-0029
高岡市御旅屋町1222-2
エルパセオ1F
TEL (0766)28-2020
FAX (0766)22-8858

社会を新たなステージへ、
ともに歩もう、ともに変えよ
～仲間の輪を広げ 安心社会をめざす～

— 高岡地協「第19回定期総会」開催(11/2) —

金作新議長を始めとする新体制のもと、
2024～25年度の活動方針を決定！



高岡地協は11月2日(水)午後2時からウイングウイング高岡4Fホールにおいて、第19回定期総会を開催した。今回は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、4年ぶりとなるフルスペックでの総会を行った。

金作副議長の開会挨拶後、宮脇代議員(JAM・三協立山労組)、古谷代議員(基幹労連・日本高周波鋼業労組)を議長

団に選出した。その後、高岡地協を代表し放地議長より「日頃より高岡地協の活動へのご理解・ご協力に感謝する」とし、取り巻く環境、組織政策、2023春季生活闘争、政策制度について課題と所見を述べた。

取り巻く環境については、「5月に新型コロナウイルス感染が第5類に移行し経済の回復に期待が高まっている。一方、エネルギー問題や急激な円安により企業物価指数は高騰し続けている。また、個人消費も物価高騰の影響により先行き不透明な状況が続いている。2023春闘で賃金改善を行っても物価上昇に追いつかず実質賃金は低下となっている。その他に、超少子高齢社会で人員不足が深刻化し、高岡市民病院の産科の休止、学校の統廃合、教職員の過重労働、トラックドライバー不足や公共交通ドライバー不足の状況である。DXの推進に加えて人材の確保・育成が急務であり、推薦議員並びに行政機関と連携し、労働者・生活者の安全・安心して暮らせる社会づくりを強化していく。」

組織政策については、「四役・幹事・青年女性連絡会の皆さんの協力で今までの経験を活かし



放地 議長

高岡地協らしい活動ができた。失敗を恐れず色々と工夫を凝らし活動が停滞しないように前進させたい。各構成組織との連携をはかり未組織への情報発信や労働組合の必要性を伝える『場』を作り、対話を中心とした『声』を聴くことが必要であり、地域に根ざした顔の見える運動を基本しながら取り組んでいきたい。また、ジェンダー平等・多様性についてもできることから始め推進していきたい」。



議長団：古谷 代議員（左）、宮脇 代議員（右）

2023春季生活闘争については、「コロナ禍、物価高、円安の三重苦の先行不透明の中、労使が交渉を重ね、多くの組織で一時金を含め前年を上回る結果となった。10年連続の賃上げの流れを2024春季生活闘争に結び付け、持続的な賃上げと『未来づくり春闘』を定着させなければならない。高岡地協では地域全体の底上げをめざし、各市商工会議所への要請行動を行い、価格転嫁など取引の適正化の取り組みを強化している。しかし、全ての労働者に波及できたか疑問であり、業種や規模間によって格差が開いたようにも思える。今後も働く人のすべての底上げ、底支えを基本としながら格差是正に取り組んでいきたい」。

政策・制度の取り組みについては、「4月の富山県議会議員選挙では3地区協に各1名の候補者の推薦を行い、自民党独占を許さないため戦いに挑んだが、残念ながら現職の2議席しか死守することができなかった。連合傘下以外の労働組合や立憲民主党以外の政党からも支援や支持をいただいたが新人1名の当選が叶わなかった。その後、連合富山の県議会議員選挙総括で浜守会長が官と民が一緒に勝ち取った勝利であるとされたが、私もそう思う。一つになれた大きな要因は10月末の氷見市議会議員選挙で得た経験だと思う。労働組合が一つになり、考えが近い労働者の代表議員が必要不可欠だと思っていた結果だと思う。改めて感謝とお礼を申し上げる。今後、高岡地協では2年後に、高岡・射水の市議会議員、2026年7月には参議院、年内には衆議院の解散もささやかれている。各支持政党と協議しながら、高岡地協として候補者の必勝に向けて精一杯取り組んでいきたい」。

最後に、「今定期総会は改選期である。今総会を持って退任される役員の方々に、これまでのご尽力に感謝申し上げると共に今後、益々ご活躍されることを祈念申し上げる」と述べた。

引き続き、来賓として連合富山浜守会長より、2023春季生活闘争について、「2023春季生活闘争は大幅な賃上げが獲得でき10年連続の賃上げが実現できた。ただ、コロナ禍で苦労している業種の春季生活闘争はまだまだ苦労が続いている。したがって2023春季生活闘争を総括するには、2024春季生活闘争、更には2025年以降継続した賃上げができるかどうかが評価の分かれ目になる。賃上げができても経済が活性化しなければならない。持続的な賃上げ、経済の好循環、

2023春季生活闘争については、「コロナ禍、物価高、円安の三重苦の先行不透明の中、労使が交渉を重ね、多くの組織で一時金を含め前年を上回る結果となった。10年連続の賃上げの流れを2024春季生活闘争に結び付け、持続的な賃上げと『未来づくり春闘』を定着させなければならない。高岡地協では地域全体の底上げを



連合富山 浜守会長

